

経営比較分析表（令和6年度決算）

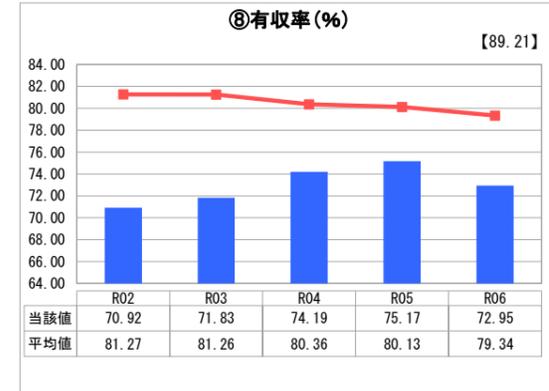
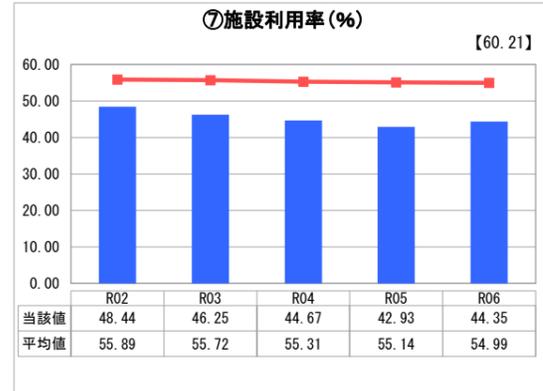
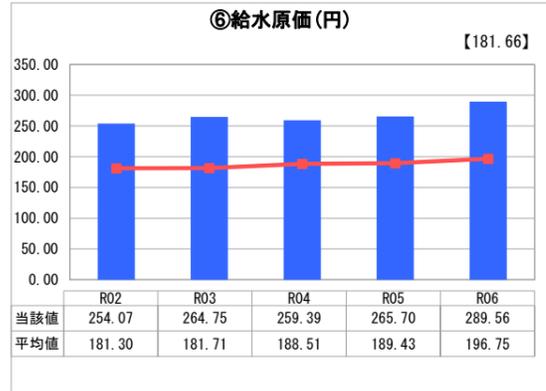
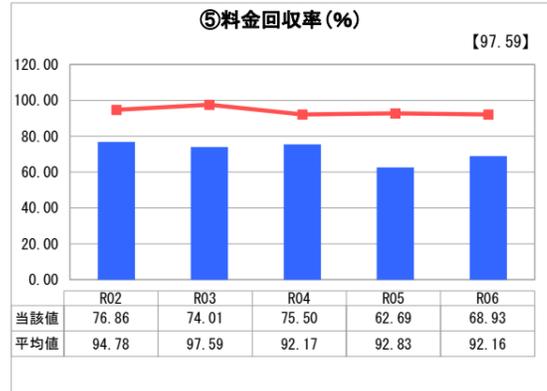
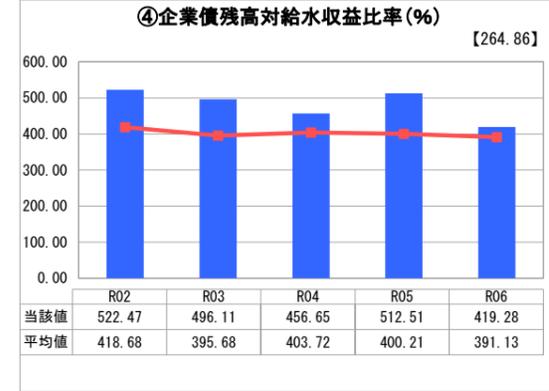
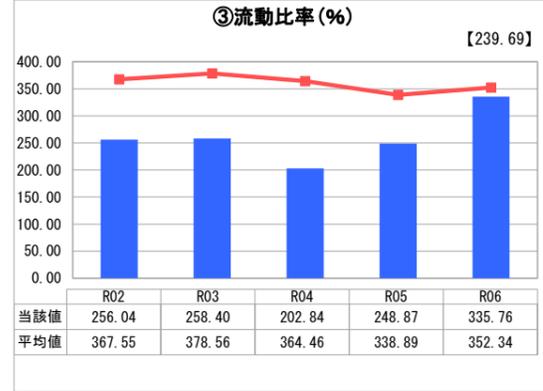
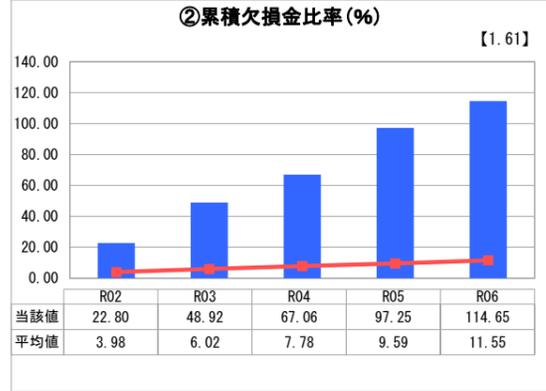
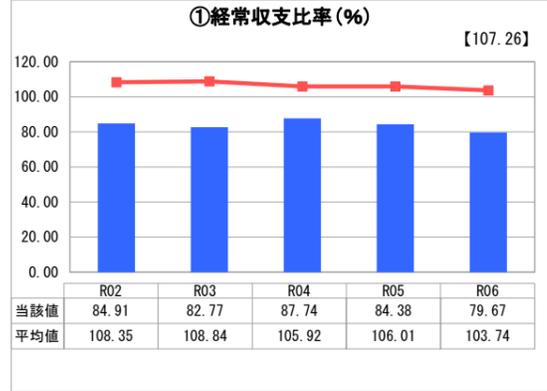
岡山県 美作市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	72.56	99.65	4,180	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
24,886	429.29	57.97
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
24,557	299.14	82.09

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

全般の経営状況について、令和2年度から簡易水道事業を法適化し、上水道事業と会計統合したことから令和6年度においても統合前と比較し数値が大きく変動している。

①経常収支比率は、年々給水収益が減少していることを主な要因とし、費用を賄えず100%を下回っている。

②累積欠損金比率は、簡易水道事業分について減価償却費等の現金支出を伴わない費用が料金収益等により賄えていないことから欠損金が累積し悪化を招いている。

③流動比率は、全国平均を下回っているが、給水収益、他会計繰入金、資金運用等により現金を確保しており、短期的な支払には対応できている。

④企業債残高対給水収益比率は、給水収益が減少しているものの、企業債の償還により減少傾向である。令和5年度においては交付金を活用した水道料金減免の実施により給水収益が大きく減少したため、相対的に企業債残高の比率が増加している。

⑤料金回収率は、簡易水道事業分の給水原価が供給単価を超えていることから100%を下回っている。また令和5年度においては水道料金減免の実施により給水収益が減少したことで、前年と比較して回収率が低下した。なお、令和7年度より簡易水道事業と上水道事業の料金が統一され、改善する予定である。

⑥給水原価は、有収水量と比較し減価償却費等の費用が高いことから、全国平均・類似団体平均値を大きく上回っている。

⑦施設利用率は、全国平均・類似団体平均値を下回っている。施設更新時には、施設の適正規模を考慮し、統廃合等を行っていく必要がある。

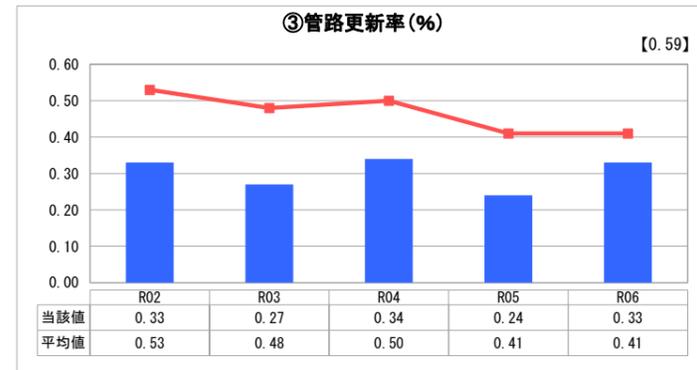
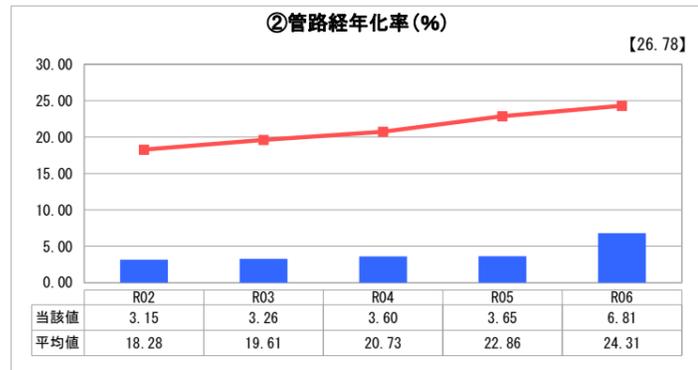
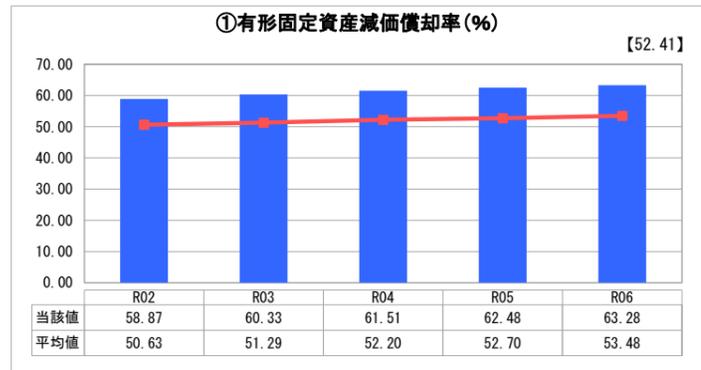
⑧有収率は、全国平均・類似団体平均値を下回っている。突発的な破裂等の修繕に対応したうえで、耐用年数を経過した老朽管等について、計画的な更新により有収率の向上に努める。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率では施設の老朽化が全国平均を上回っているが、管路経年率は全国平均を下回っている。これは積算ベースを固定資産台帳から、取得年度情報を追加した管路台帳に変更、下水道事業や受託工事に伴う布設替えを反映したためである。

施設の老朽化は進みつつあるものの、更新需要のピークを迎えておらず、将来の更新需要に備え、引き続き計画的な施設更新を行っていく必要があると考える。

2. 老朽化の状況



全体総括

今後、人口減少に伴う料金収入の減少、施設稼働率の低下、経年による浄水施設の老朽化などが進行すると予想される。

このことから、適正な料金設定及び施設更新時における統廃合及び広域化を検討・実施し、経費削減等の事業の効率化を図る必要があると考えている。